

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	学校企画課県立学校改革推進室長	津森敬次	電話番号	0852-22-6723
----------	-----------------	------	------	--------------

事務事業の名称	県立学校の再編成	
目的	(1) 対象	県立学校の児童生徒
	(2) 意図	高校教育の水準を確保し、魅力と活力ある学校づくりをしていくために、県立学校の適正な配置や規模の適正化を行い、望ましい教育環境を確保していく。
事業概要	高校教育の水準を確保し、魅力と活力ある学校づくりを進めるため、①ある程度通学可能な広域エリアにおいて統合再編成を行うことにより望ましい学校規模を確保し、②生徒にとって魅力ある教育環境を整え学校の活性化を図るという考え方にに基づき、高校の再編成を進める。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	再編成計画の実施率	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0	%
			取組目標値					
	式・定義	3～8学級規模の学校数/全学校数	実績値	76.5				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
			取組目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	4,204	7,661
うち一般財源 (千円)	4,204	7,661

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・県立高等学校再編成計画の統廃合基準に該当する1学年2学級以下の県立高校は8校(昨年度より1校増)
- ・1学年3学級の県立高校は8校(うち3校は1学級30人定員、標準は40人)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・3校で3学級の減を実施
- ・3校の1学級定員を40人→30人に減らし、定員を90人減
- ・全体で90人+40人×3学級=210人分の定員減、210人÷40人=5.25学級分の減

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・少子化により入学定員の適正化を図る必要があるが、統廃合基準に沿って高校の統廃合を進めることができないため、学級減により対応せざるを得ない状況がある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・統廃合基準に該当する多くの高校は、地域コミュニティや文化的拠点の役割を果たしていたり、地域の活力を引き出している。このため、慎重な判断が求められている。
- ・統廃合を進める手続き・手順が定まっていない。

③原因を解消するための「課題」

- ・地域における高校の役割と生徒にとって望ましい教育環境の整備をどのように判断していくか
- ・地元住民が望む高校の将来像の把握

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

地元市町村や教育関係者等の意見を十分聴取するとともに、学識経験者、経済界の代表など有識者の客観的な見解を求めていくことにより、統廃合実施計画を作成し、その実現化を進める。

- ・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
- ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)